

東大寺の瓦を製作した大規模瓦工場跡
万富東大寺瓦窯跡



東大寺軒丸瓦



指定区分	国指定史跡
読みかた	まんとみとうだいじがようあと
所在地	岡山市東区瀬戸町万富
指定年月日	昭和2年4月8日
解説	平安時代末に戦乱のため焼失した奈良東大寺の再建の際、使用する瓦を製造した窯跡の一つ。確認されている窯は10数基であるが、20基以上あったと想定されている。この地に窯が構築されたのは、建久4年(1193)に備前国が、税金を再建の費用にあてる造営料国となったためと考えられている。
アクセス方法	JR万富駅から徒歩10分
公開状況	自由
設備	
備考	大寺山という細長い丘陵の南端の崖の斜面に窯跡があり、説明看板も立っています。

きつずページ



東大寺軒丸瓦

していくぶん (指定区分)	国指定史跡
ぶんかざいめい (文化財名)	万富東大寺瓦窯跡
よみかた	まんとみとうだいじがようあと
しょざいち (所在地)	岡山市東区瀬戸町万富
していつひ (指定した日)	昭和2年4月8日
せつめい	奈良(なら)の大仏(だいぶつ)で有名(ゆうめい)な東大寺(とうだいじ)を建(た)て直(なお)すときに、ここでとてもたくさんの瓦(かわら)をつくりました。瓦を焼(や)いた窯(かま)は20基(き)以上あったと考えられています。